

ソーシャル絵本推薦システムにおける他者の推薦行動の可視化機能の影響

三島 悠希

子どもへの絵本の読み聞かせは、言語能力の発達や親子間のコミュニケーションの向上に役立つとされている。より効果的な読み聞かせを行うために子どもが興味を持つ絵本を選択する必要があるが、子どもの興味は一人ひとり異なるため、適切な絵本を選択することは難しい。この問題を解決するために、子どもの質問に興味が表示されることに着目し、ソーシャルな絵本推薦を行う「びくぶく」というシステムがある。「びくぶく」は、利用者が子どもの質問を入力すると、その質問を目にした他の利用者が絵本を推薦してくれるシステムである。これまでの研究で質問に絵本が推薦される割合が4割と低いことが課題であった。その原因の1つとして、他の利用者の推薦行動が見られないため、具体的にどのような絵本を推薦すればよいのかわからないことが考えられる。

そこで本研究では、他の子どもの質問へ推薦された絵本を閲覧できる可視化機能を「びくぶく」に導入し、この機能が、絵本の推薦行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的とする。

本研究で導入した可視化機能の影響を検証するために、利用者実験を行った。対象は3歳から6歳の未就学児がいる親子14組とし、改良版びくぶくを利用する実験群とびくぶくを利用する統制群に分け、絵本の知識に関する事前アンケートを行い、その後2週間、期間内に自由にシステムを利用してもらった。最後に絵本の知識、インターネットの利用状況やシステムを使った感想などを尋ねる事後アンケートを行った。

実験の結果、実験群と統制群で子どもの質問数や絵本の推薦数、被推薦数といった行動には有意な差が見られなかった。ただし、事後アンケートから、実験群全員が他の子どもの質問へ推薦された絵本を参考にしていたことが分かった。加えて、改良版びくぶくの良かった点に他の子どもの質問へ推薦された絵本が閲覧可能な点が挙げられた。

本研究により、他の子どもの質問へ推薦された絵本の表示が、ユーザの絵本推薦の参考になる可能性が示された。今後の課題は、ユーザに推薦行動をより活発に行ってもらおう仕組みの検討と推薦された絵本を実際に読んでもらうための長期的な評価実験の設計である。

(指導教員 松村敦)